

## 調査結果のまとめ

### 1 広報について

#### (1) 「広報さがみはら」の閲覧状況

「広報さがみはら」をどの程度お読みになっているかたずねたところ、「よく読んでいる」(12.5%)と「ある程度は読んでいる」(30.9%)の2つを合わせた《読んでいる(計)》(43.4%)と、「あまり読んでいない」(22.3%)と「知っているが全く読んでいない」(19.0%)の2つを合わせた《読んでいない(計)》(41.3%)はどちらも4割を超えている。

また、「『広報さがみはら』を知らない」(13.8%)は1割を超えている。

#### (1-1) 「広報さがみはら」を読んでいない理由

「広報さがみはら」を「あまり読んでいない」または「知っているが全く読んでいない」と答えた方に、読んでいない理由をたずねたところ、「読まなくても支障がない」(43.9%)が4割を超え最も高く、次いで、「入手する方法がわからない」(30.0%)、「忙しくて読む暇がない」(27.0%)、「興味がない」(15.5%)と続いている。

また、「その他」への回答として、「新聞を購読していない」、「家族が読んでいる内容を教えてくれる」、「入手するのが難しい」などがあげられている。

#### (2) 市政について知りたいこと

市政について知りたいことをたずねたところ、「まちの話題や地域のニュース」(36.6%)が4割近くで最も高く、次いで、「市が取り組んでいる重要施策」(33.1%)、「市の行事や催し物情報」(32.1%)、「地域の防災に関する情報」(23.8%)、「市の予算の使い方」(22.3%)と続いている。

#### (3) 市の情報を得る手段

相模原市の情報を日ごろ何から得ているかたずねたところ、「広報さがみはら(紙面)」(43.0%)が4割を超え最も高く、次いで「自治会・公民館だより」(27.5%)、「インターネット(市ホームページなど)」(21.2%)、「家族・友人・知人・近所の人」(19.6%)、「新聞」(15.0%)と続いている。

#### (3-1) インターネットを利用する手段

相模原市の情報を「広報さがみはら(Web)」、「インターネット(市ホームページなど)」から得ていると答えた方に、インターネットを利用する手段をたずねたところ、「スマートフォン」(79.4%)が約8割で最も高く、次いで、「パソコン」(49.5%)、「タブレット端末」(13.3%)と続いている。

#### (4) 広報紙の形状

広報紙として、読みやすい形状をたずねたところ、「タブロイド判(現行サイズ)」(45.9%)が4割半ばと高く、次いで、「デジタル版として読むので紙媒体は不要」(23.8%)、「A4判の冊子」(20.8%)、「紙媒体で他のサイズ・形状」(1.4%)と続いている。

## (5) 広報紙の配布方法

「広報さがみはら」の配布方法についてたずねたところ、「発行回数を減らし、インターネット（スマホアプリなど）を使った情報発信を充実させ、配布方法は現在のままでよい(②)」(35.0%)が3割半ばと最も高く、次いで、「発行回数や配布方法などは現在のまま、インターネット（スマホアプリなど）を使った情報発信を充実させ、広報さがみはらの置き場所の拡充などを行う(①)」(25.2%)、「広報さがみはらを必要とする方だけに配布する」(18.0%)、「発行回数や情報量を減らして、全戸ポストイングする(④)」(8.1%)、「現在の発行回数や情報量のまま、全戸ポストイングする(③)」(7.0%)と続いている。

## (6) 「さがみはら市議会だより」の閲覧状況

「さがみはら市議会だより」をどの程度お読みになっているかたずねたところ、「よく読んでいる」(4.8%)と「おおざっぱに読んでいる」(29.6%)の2つを合わせた「読んでいる(計)」(34.4%)は3割半ばとなっている。一方「あまり読んでいない」(22.6%)と「知っているが全く読んでいない」(15.9%)の2つを合わせた「読んでいない(計)」(38.5%)は4割近くとなっている。

また、「『さがみはら市議会だより』を知らない」(25.9%)は2割半ばとなっている。

### (6-1) 「さがみはら市議会だより」を読んでいない理由

「さがみはら市議会だより」を「あまり読んでいない」または「知っているが全く読んでいない」と答えた方に、読んでいない理由をたずねたところ、「読まなくても支障がない」(43.5%)が4割を超え最も高く、次いで、「興味がない」(25.2%)、「読みたい記事がない」(24.6%)、「忙しくて読む暇がない」(21.8%)、「文字が多すぎて読む気にならない」(12.9%)と続いている。

## (7) 市議会の広報イベントについての興味

市議会の広報イベントについて、どのようなものに興味があるかたずねたところ、「特にない」(47.9%)が5割近くと最も高く、次いで「市議会活動の報告会」(28.1%)、「施設（議場など）の見学会」(16.0%)、「子どもの議会体験会」(13.5%)、「市議会の仕組みなどを知るための講習会」(8.7%)と続いている。

## 2 市制施行70周年について

### (1) 市制記念日の認知度

市制記念日を知っているかたずねたところ、「知っていた」(27.4%)は3割近くとなっている。一方、「知らなかった」(71.1%)は7割を超えている。

## (2) 相模原市の魅力について

相模原市の魅力についてたずねたところ、「都心からの交通アクセスが良い一方で自然環境にも恵まれており、都市と自然のベストミックスを感じられる」(66.9%)が7割近くと高く、次いで「JAXA相模原キャンパスにて小惑星探査機の「はやぶさ」や「はやぶさ2」、小型月着陸実証機「SLIM」などの開発・運用が行われており、宇宙を身近に感じられる」(37.5%)、「子育て支援や公園施設が充実しており、子育てがしやすい」(12.0%)、「市内に活動拠点を置くプロスポーツチームが複数あり、スポーツに親しみやすい」(9.3%)、と続いている。

## (3) 市制施行100周年に向けた、30年後の相模原市について

市制施行100周年に向けて、30年後の相模原市がどのようなまちになってほしいかたずねたところ、「高齢者にとって便利で暮らしやすいまち」(51.7%)は5割を超えている。次いで、「災害に強いまち」(44.4%)、「生活基盤(病院や学校、商業施設など)が整っているまち」(42.0%)、「水や緑の自然が豊かなまち」(36.2%)、「子育てしやすいまち」(34.6%)、「リニア中央新幹線(仮称)神奈川県駅の開業により発展しているまち」(20.9%)、「教育が充実しているまち」(15.8%)、「文化芸術活動が盛んなまち」(9.0%)と続いている。

## 3 『子育てするなら相模原』に関する施策について

### (1) 『子育てするなら相模原』の施策についての認知度

『子育てするなら相模原』に関する施策について知っていることをたずねたところ、「医療費助成を高校3年生まで拡大(令和6年8月～)」(32.6%)は3割を超えている。次いで、「子どもの個人利用の施設使用料等無料化(令和5年10月1日～)」(20.5%)、「市内公園などの原則禁煙化(令和5年10月1日～)」(20.0%)、「新たな給食センターによる中学校給食の提供(中学校給食全員喫食の推進)(令和8年中)」(12.9%)と続いている。

## 4 大規模災害発生時に開設される医療救護所について

### (1) 市内での大規模災害発生時に、医療救護所が開設されることの認知度

市内で大規模な災害が発生した場合に、医療救護所が開設されることについて知っているかたずねたところ、「開設されることも最寄りの医療救護所の場所も知らない」(66.3%)が7割近くとなっている。次いで、「開設されることは知っているが、最寄りの医療救護所の場所はわからない」(26.6%)、「開設されることも最寄りの医療救護所の場所も知っている」(5.3%)と続いている。

### (2) 医療救護所の活動についての認知度

医療救護所の活動について知っているかたずねたところ、「医療救護所の活動について知らない」(81.2%)は8割を超え最も高くなっている。次いで、「医療救護所の活動についてある程度知っている」(13.9%)、「医療救護所の活動についてよく知っている」(1.4%)と続いている。

## (2-1) 医療救護所の情報源

医療救護所の情報について何から知ったかをたずねたところ、「広報さがみはら」(43.5%)は4割を超え最も高い。次いで、「防災ガイドブック」(42.4%)、「自治会が作成した広報紙等(回覧)」(23.4%)、「家族・友人・知人との会話等」(18.5%)、「市ホームページ」(12.5%)と続いている。

## (3) 医療救護所の認知度を高める手段について

医療救護所の認知度を高めるためにはどのようなことをしたら良いかたずねたところ、「ポスターやチラシを作成して病院や診療所、クリニックで掲示や配布をしてもらう」(51.3%)は、5割を超えて最も高く、次いで、「定期的に「広報さがみはら」で周知する」(38.9%)、「定期的に医療救護所のチラシ等を作成して自治会を通じて配布する」(30.4%)と続いている。

## (4) 大規模災害が発生し怪我を負った場合の対処法

大規模な災害が発生し、あなたまたは他の方が擦り傷や骨折などの怪我を負った場合、どのようにするかたずねたところ、「最寄りの病院で手当をしてもらう」(38.6%)は4割近くと最も高くなっている。次いで、「最寄りの医療救護所で手当をしてもらう」(37.8%)、「自分で手当をするか、誰かに手当をしてもらう」(11.7%)と続いている。

## (4-1) 最寄りの病院で手当をしてもらう理由

大規模な災害が発生し、あなたまたは他の方が擦り傷や骨折などの怪我を負った場合、最寄りの病院で手当をしてもらうと答えた方に理由をたずねたところ、「医療救護所の場所がわからないから」は約5割で最も高くなっている。次いで、「最寄りの医療救護所よりも病院の方が、医師、看護師等の人材が整っており安心だと思うから」(24.1%)、「最寄りの医療救護所よりもかかりつけ医の方が、自分の既往歴などが分かっており安心だと思うから」(19.8%)、「最寄りの医療救護所よりも病院の方が近いから」(19.6%)、「最寄りの医療救護所よりも病院の方が、医療機器などが整っていると思うから」(18.1%)、「病院の方が早く手当をしてくれると思うから」(12.7%)と続いている。

## (5) 大規模災害時に怪我を負った時の救護所まで行ける距離

大規模な災害が発生し、負傷した場合にどのくらいの距離であれば医療救護所まで行けるかたずねたところ、「約1km(徒歩約15分)※JR横浜線「相模原駅」から市役所本庁舎までの距離に相当」(63.6%)は6割を超え最も高くなっている。次いで、「わからない」(16.1%)、「約2km(徒歩約30分)※JR横浜線「淵野辺駅」から市役所本庁舎までの距離に相当」(15.6%)と続いている。

## (6) 自宅にて軽症(傷)を治療できる医薬品や処置用具の備えについて

自宅に軽症(傷)を治療できる医薬品や処置用具を備えているかたずねたところ、「備えている(軽症であれば、治療できる程度)」(47.8%)は5割近くと最も高くなっている。次いで、「一部備えている(絆創膏と消毒液のみ備えている等)」(43.9%)、「備えていない」(7.3%)と続いている。

## 5 スポーツの観戦や支援について

### (1) 相模原市に拠点を置く「相模原市ホームタウンチーム」に対する関心

相模原市内に拠点を置く「相模原市ホームタウンチーム」について、どの程度関心があるかを4チームに分けてたずねたところ、「チームを応援しているが、観戦に行ったことがない」は③SC相模原(13.5%)が1割を超え最も高く、「名前を知っている程度」は③SC相模原(59.6%)が約6割と最も高くなっている。一方、「知らない」は①ノジマ相模原ライズ(54.7%)が最も高く5割半ばとなっている。

### (2) 相模原市に拠点を置く「相模原市ホームタウンアスリート」に対する関心

相模原市内に拠点を置く「相模原市ホームタウンアスリート」について、どの程度関心があるかを5名に分けてたずねたところ、「名前を知っている程度」は①角田裕毅選手(25.4%)が2割半ばで最も高くなっている。

### (3) 国際自転車ロードレース「ツアー・オブ・ジャパン相模原ステージ」に対する関心

相模原市にて開催される国際自転車ロードレース「ツアー・オブ・ジャパン相模原ステージ」について、どの程度関心があるかたずねたところ、「名前を知っている程度」(20.7%)が約2割、次いで、「大会を知っているが、観戦に行きたいとは思わない」(16.8%)、「大会を知っており、観戦に行ったことはないが機会があれば観戦に行きたい」(13.9%)、「大会を知っており、観戦に行ったことがある」(4.2%)と続いている。  
一方、「知らない」(43.0%)は、4割を超えている。

## 6 移動手段について

### (1) 外出の頻度について

普段の生活の中での外出頻度についてたずねたところ、「週5日以上」(55.7%)が5割半ばで最も高く、次いで、「週2～4日」(31.3%)、「週1日」(8.1%)と続いている。

### (2) 移動が不便と感じる場面について

普段の生活の中で、移動が不便を感じる場面があるかたずねたところ、「ない」(58.1%)が6割近くで高く、「ある」(38.2%)は4割近くとなっている。

#### (2-1) 移動が不便と感じる具体的な場面

普段の生活で移動が不便と感じる場面がある方に、主にどこに行く移動で不便を感じるかについてたずねたところ、「通勤、通学(子どもの送迎含む)」(29.8%)が約3割で最も高く、次いで、「病院」(22.6%)、「市役所など(行政の手続きなどのための移動)」(19.1%)、「買い物」(14.8%)と続いている。

## (2-2) 不便と感じる交通機関について

普段の生活で移動が不便と感じる場面がある方に、目的地までの移動で最も不便と感じる交通機関をたずねたところ、「路線バス（乗合タクシー含む）」(28.7%)が最も高く、3割近くとなっている。次いで、「自動車（自分で運転）」(19.1%)、「電車」(14.6%)、「自転車」(11.3%)、「自動車（家族などの送迎）」(10.0%)、「徒歩」(6.5%)、「タクシー」(5.4%)と続いている。

## (3) 公共交通に求める重要な環境について

公共交通に求める環境として、最も重要だと思う事をたずねたところ、「時間通りに移動できること（定時性）」(47.3%)が最も高く、5割近くとなっている。次いで、「運賃が安いこと（経済性）」(19.3%)、「座って移動できるなど、疲れなくて移動できること（快適性）」(19.3%)、「早く移動できること（速達性）」(11.3%)と続いている。

## (4) 市内の交通への要望

市内の交通において、「取り組んでほしいこと」をたずねたところ、「鉄道やバスなどの公共交通網の整備」(39.5%)は約4割で最も高くなっている。次いで、「安全に移動できる歩道の整備」(35.5%)、「道路渋滞を緩和する道路ネットワークの整備」(30.8%)、「自転車道や自転車駐車場の整備」(30.7%)と続いている。

## 7 自転車の安全利用について

### (1) 自転車保険の加入状況

自転車運転中の加害事故の被害者に対する賠償に備えた保険に加入しているかたずねたところ、「加入している」(40.7%)は約4割となっている。一方、「自転車を持っているが、加入していない」(10.9%)は約1割、「自転車を持っているが、加入しているか分からない」(8.1%)は1割未満、「自転車を持っていない」(38.8%)は4割近くとなっている。

また、「自転車を持っている方」（「自転車を持っていない」+無回答者を除く）でみると、「加入している」(68.2%)は7割近くとなっている。

### (1-1) 加入している保険の種類

自転車保険に「加入している」と答えた方に、加入している保険の種類をたずねたところ、「個人賠償責任保険（特約も含む）」(74.7%)が7割半ばと最も高く、次いで、「団体保険又は共済」(18.8%)、「TSマーク付帯保険」(6.7%)と続いている。

### (1-2) 加入していない理由

自転車保険に「自転車を持っているが、加入していない」と答えた方に、加入していない理由をたずねたところ、「自転車にほとんど乗らないから」(56.5%)は5割半ばと最も高く、次いで、「加入手続きの方法が分からないから」(21.4%)、「費用が掛かるから」(19.1%)、「事故の加害者になることはほとんどないと思うから」(11.5%)と続いている。

## (2) 自転車に乗るときのヘルメットの着用状況

自転車に乗るときにヘルメットを着用しているかたずねたところ、「ヘルメットを持っていないので、着用していない」(41.4%)が4割を超えて最も高く、次いで、「自転車を持っていない」(38.5%)、「着用している」(7.4%)、「ヘルメットを持っているが、着用していない」(6.1%)と続いている。

### (2-1) ヘルメットを着用していない理由

自転車に乗るときにヘルメットを「着用していない」と答えた方に、着用していない理由をたずねたところ、「暑かったり、重かったりするから」(46.2%)が4割半ばで最も高く、次いで、「着用後に髪型を整えるのが面倒だから」(26.6%)、「周りの人も着用していないから」(25.9%)、「費用が掛かるから」(25.2%)と続いている。

## 8 大都市制度（指定都市制度・特別自治市（特別市）制度）について

### (1) 相模原市が「政令指定都市」であることの認知度

相模原市が「政令指定都市」であることを知っているかたずねたところ、「知っている」(92.2%)は9割を超えている。

### (2) 「特別市制度」の認知度

「特別市制度」について、知っているかたずねたところ、「制度の名前も内容も知らない」(55.6%)が5割半ばと最も高く、次いで、「制度の名前は聞いたことがあるが、内容は知らない」(31.1%)、「制度の内容を知っている」(9.6%)と続いている。

#### (2-1) 「特別市制度」を知った理由

「特別市制度」について、「制度の内容を知っている」または「制度の名前は聞いたことがあるが、内容は知らない」と答えた方に何で知ったかたずねたところ、「本市のホームページ、広報（広報さがみはら）」(41.8%)が4割を超えて高く、次いで「テレビ・新聞などの報道」(36.9%)、「本市の公共施設（庁舎・図書館等）やイベントで配架・掲示したチラシ・ポスター」(17.6%)、「ソーシャルメディア（LINE、X（旧Twitter）、YouTube等）」(10.4%)、「他市の広報物」(4.5%)と続いている。

### (3) 「特別市制度」について知りたいこと

「特別市制度」について、知りたいことをたずねたところ、「制度実現により期待されるメリット」(58.4%)が6割近くで最も高く、次いで「制度の内容」(56.6%)、「制度の必要性」(41.4%)、「制度実現により懸念される事項や課題」(28.9%)、「制度実現に向けたプロセス・進捗状況」(15.8%)と続いている。